

## 平成 24 年度 NPO 等活動支援団体と推薦理由

平成 24 年 6 月 7 日に開催された「第 12 回 NPO 等活動支援選定委員会」において、下記の 5 団体を支援することが決定いたしました。推薦理由(抜粋)は以下の通りです。

NO	団体情報	推薦理由(抜粋)
1	<p>【団体名称】 NPO 法人ウムヤス来間島</p> <p>【代表者名】 仲松 義雄</p> <p>【事業名称】 空き家や自然資源を活用し、交流により来間島を活性化させる事業</p> <p>【会員数】 15 人</p> <p>【活動分野】 地域づくりの推進を図る事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>人と人との心の絆を深め、空き家活用、自然資源の活用とふれあい、高齢者外出支援、観光客との文化交流等の活動をとおして、地域の課題解決へ取り組む。</p> <p>1. 空き家活用相談窓口開設: 4 ~ 3 月</p> <p>2. 観光総合案内ガイド養成、宣伝用: 6 ~ 8 月</p> <p>3. 高齢者の外出支援、自然探索ガイド、民具及び貝殻細工製作指導: 4 ~ 3 月</p> <p>4. 人材育成研修: 8 月・9 月・12 月・1 月</p> <p>5. 薬草・ハーブの植栽作業: 5 ~ 6 月・12 ~ 1 月</p> <p>6. 自然丸ごと子ども教室: 8 ~ 9 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 離島の地域づくり、振興に関する取り組みであり、地域資源を新しいタイプの滞在型観光につなげる点、空き家を活用することで地域の活力維持を視野に入れるなど、独自の視点で工夫がある取り組みである。</li> <li>・ 離島の活性化事業としてまことに具体性がありすぐれている。空き家利用として、工房の開設は無理がなくいいと思う。薬膳メニュー、来間島料理など魅力がある。実現の折には、訪問したくなる活動だ。児童参加型の活動もすぐれている。高齢者の外出支援や暮らしの手助けなども、必然性のある活動として評価したい。</li> <li>・ これまで県内各地に架けられた橋は、地域活性化の救世主と期待されてきたが、その後の展開を見ると、過疎化が進行する結果が多い。来間島の計画は、こうした過疎の島で地元の素材を徹底的に活用しながら、人が訪れる機会を増やし、高齢化した島内での交流も図っていこうとするもので、期待がもてる。</li> <li>・ 来間島の活性化を真剣に考えている仲間が、知恵を出し合い、実現可能性の高い事業となっている。地域にある自然資源を活かした地に足のついた事業で、事業の実施で島の人と人のつながりや観光客との交流が進み活性化することが想像できる。等身大の来間島の取り組みは、大きな支援効果が期待できる。</li> </ul>
2	<p>【団体名称】 沖縄学校ビオトープ研究会</p> <p>【代表者名】 佐々木 健志</p> <p>【事業名称】 沖縄県における学校ビオトープの現状把握と教材開発</p> <p>【会員数】 7 人</p> <p>【活動分野】 地域づくりの推進を図る事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>沖縄県内における学校ビオトープの設置及び</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代への環境意識の啓発に資する取り組みであり、事業内容のアンケート等の分析と教材は、その成果の活用がより広く可能な内容である。また、単年の支援でも一定の成果を期待できる。</li> <li>・ 地域を巻き込んだ取り組み、関係機関等との連携が期待される。</li> <li>・ ビオトープを一過性のブームに終わらせることなく、環境教育の場として継続していく活動に敬意を</li> </ul>

	<p>利用状況の把握と既存のビオトープに関連した幼稚園児向けの教材開発を目的に調査研究を実施する。</p> <p>1. アンケート調査: 6 ~ 12 月  2. ビオトープ生物調査: 6 月 ~ 3 月  3. 植栽試験: 6 ~ 7 月  4. 生物図鑑シートの作成: 1 ~ 3 月</p>	<p>表したい。亜熱帯沖縄にふさわしい、学校ビオトープの管理マニュアルは、とても役立つものになるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ビオトープにおいても沖縄ならではの工夫が求められる。今後、さらに必要性が増してくる分野だと思う。</li> <li>・活動に携わるメンバーが学生を中心にしており、調査・研究をとおして生きた教育装置であるビオトープの製作や維持管理の知識を有した人材育成にも寄与する。亜熱帯沖縄独自のビオトープ管理マニュアルや生き物図鑑シートを作成することで、子どもたちの環境教育の菜場を広げ、ビオトープ普及へとつながることが期待できる。</li> </ul>
3	<p>【団体名称】 特定非営利活動法人レキオウインクス</p> <p>【代表者名】 安和 朝忠</p> <p>【事業名称】 共同売店応援プロジェクト</p> <p>【会員数】 12 人</p> <p>【活動分野】 地域づくりの推進を図る事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>「共同売店」は沖縄独自のすばらしい財産。共同売店を支援しながら意義を普及させるため、冊子やマップの作成販売し、売り上げはそのまま各共同売店へ寄付する。</p> <p>1. 調査、編集方法の検討: 5 ~ 7 月  2. 調査編纂: 7 ~ 10 月  3. 翻訳: 9 ~ 11 月  4. 印刷: 12 月  5. 県内各共同売店へ配布、60ヶ所: 1 ~ 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄らしさ・独自の共同売店という地域資源を活かすコンテンツの強化であり、地域資源を活かした観光、新たなツーリズムなどに広がる点で、今後の広がり期待できる取り組みである。また、単年の支援でも一定の成果を期待できる。</li> <li>・共同売店は、NPO による市民ビジネスとしての性格があり、注目に値するものである。その共同売店が減少の一途と言うことである。意義についての評価が大きい中、本団体の今活動は、共同売店の意義に対しては、小さくも写る。今後の発展性も欲しい所である。</li> <li>・沖縄独自の集落コミュニティの核として機能してきた共同売店は、過疎化・高齢化に悩む地域の相互援助のあり方として再評価されている。今後の高齢化社会においては、さらに必要性が高まる地域経営モデルだと感じる。取り組みを応援したい。</li> <li>・沖縄独自の「共同売店」という地域で助け合い、地域が潤う仕組みをつくるシステムを、冊子やマップも作り、現代的な意義を広く周知したいとの趣旨はユニークである。英訳を付けての冊子発行やウェブサイトでの公開は、小さな共同体の活性化モデルとして他府県や海外にも普及する可能性を秘めている。</li> </ul>
4	<p>【団体名称】 沖縄・生物多様性市民ネットワーク 豊見城支部</p> <p>【代表者名】 瀬長 修</p> <p>【事業名称】 豊見城グスクの歴史的自然景観を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊見城城址は、市中にあって”空白感”のある場所であるが、それは歴史の空白に通じることでもあり、文化遺産の公開と保存が待たれる場所であった。日の目を見させる活動として評価したい。</li> </ul>

	<p>守り、城址復元と整備を目指す活動</p> <p>【会員数】 7人</p> <p>【活動分野】 地域づくりの推進を図る事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>豊見城グスクの現状を知るシンポジウムの開催と報告書の作成等をおして、復元・整備を進める市民の会を結成し、継続的な活動へとつなげる。あわせて清掃活動等も行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンポジウムの開催: 6月</li> <li>2. シンポジウム報告書作成・頒布: 7月</li> <li>3. 復元と整備「研究会」: 8月</li> <li>4. 復元と整備「研究会」報告書作成: 9月</li> <li>5. 「市民の会」結成、清掃活動: 1月</li> <li>6. 野鳥観察会: 2月</li> </ol>	<p>豊見城グスクは民間所有地の中にあるという誤解が指摘されたことは新鮮な驚きだ。城郭部分が自治会所有地であることも、ほとんど知られないままに放置されてきたため、市民の活動の始点となるシンポジウムを開催するのは期待が持てる。</p> <p>・南部地域には、まだ調査を行っていないグスクは小さなものも含めると数百もあるという。大型の豊見城グスクが、遺跡としての調査がほとんどなされておらず、戦績の病院壕も手つかず、鹿児島企業の土地であることなどはじめて知った。シンポジウムを契機に、文化財・戦跡・環境の保全に向けての動きが現れれば支援効果的の期待も大きい。</p>
5	<p>【団体名称】 大宜味村自然文化交流推進協会</p> <p>【代表者名】 宮城 良治</p> <p>【事業名称】 大宜味エコミュージアム・山・川・海との共生プロジェクト</p> <p>【会員数】 67人</p> <p>【活動分野】 環境の保全を図る事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>大宜味エコミュージアムプロジェクトの一環として、昨年度に引き続き「リュウキュウアユの棲める川づくり行動計画(仮称)概案」を策定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境回復に向けた自然調査: 4～6月</li> <li>2. 「環境回復活動検討委員会」開催: 7月、2月</li> <li>3. 回復活動の実践・啓発: 通年、10月</li> <li>4. 地域住民参加による大保川の環境回復活動: 8月、10月</li> </ol>	